

ふくしま共創のまちづくり計画

中央東地区

作成：中央東地区地域の個性を生かした
まちづくり計画策定懇談会
事務局：福島市役所 地域協働課内
電話：(024) 525-3731

地域ビジョン

「県都福島市の顔として、地域住民が誇りをもちながら、

ずっと住み続けたいと思えるまち」

「地域住民が互いに協力し、

安全に安心して健康に暮らせるまち」

「地域住民と企業、商店街、学生との連携のもと、

市内外から来る多くの人でにぎわうまち」

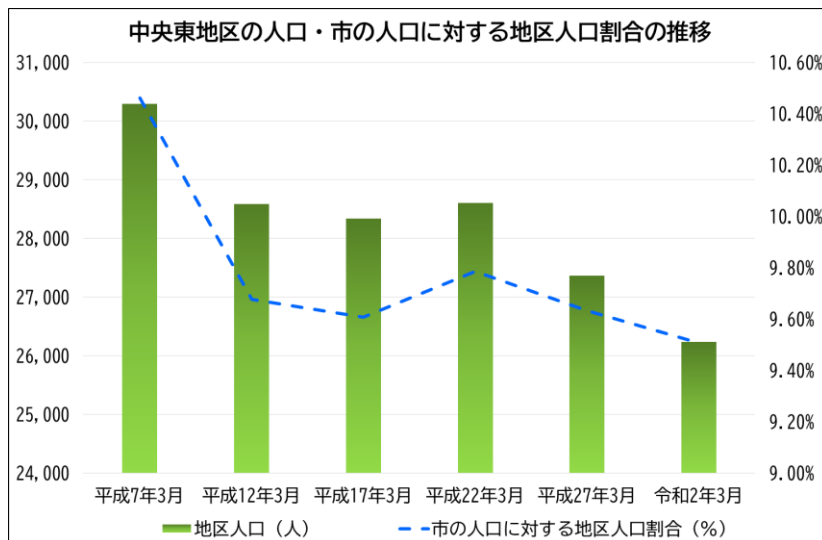


第4回信夫山フォトコンテスト入選作品

【花火に浮かぶ信夫山】

地域の個性

- 【位置】 JR福島駅を中心に広がる本市の中心市街地であり、政治、経済、文化、教育、医療など、多くの機能が集積する地区です。
- 【公共交通機関】 JR東北新幹線やJR東北本線、奥羽本線などの鉄道や国道4号、13号、114号及び115号をはじめとする本市の主要な交通結節点となっています。
- 【公共施設等】 市役所、県庁などの行政機関や高校、大学、市民会館、福島テルサ、音楽堂、古関裕而記念館、中央学習センター、図書館、こむこむ館、アオウゼなどの教育文化施設、金融機関、JRA福島競馬場、総合病院、体育施設、保健行政の拠点である県北保健福祉事務所や保健福祉センターなど市民生活を支える多くの機能を有しています。
- 【自然環境】 地区には、本市のシンボルである信夫山、周辺には、阿武隈川や荒川、松川、祓川が流れ、豊かな自然と触れ合うことができます。
- 【歴史】 福島藩の城下町として、歴史的にも重要な多くの寺社仏閣をはじめ、御倉邸、岩谷観音、旧祓川橋など多くの名所旧跡や歴史資源があります。
- 【行事・祭り】 夏のわらじまつり、福島七夕祭り、ふくしま花火大会や秋の稲荷神社例大祭、冬の暁まいり、JRA福島競馬の春夏秋開催など県内外から多くの観光客が訪れます。



中央東地区の基礎データ (R2.9末現在)

項目	中央東地区	市全体
面積	8.02km ²	767.72km ²
人口 (人)	26,238 (市全体の9.5%)	275,966
15歳未満	2,545 9.7%	31,659 11.5%
15~64歳	16,166 61.6%	161,424 58.5%
65歳以上	7,527 28.7%	82,883 30.0%
世帯数	13,696世帯	123,906世帯

地域の取り組みの実績

- 花いっぱい運動：共同作業を通して地域環境の美観整備に取り組んでいます。
- あいさつ運動：家庭をあいさつの発信地として地域ぐるみであいさつ運動に取り組んでいます。
- 山車フェスタへの参加：町会や青年会が守り継いでいる山車が中心市街地をにぎやかに練り歩きます。
- 福島踊屋台の巡行：NPO法人福島踊屋台伝承会を中心に踊屋台の活用を検討し、駅前通り巡行やイベントでの一般公開を行っています。
- 祓川周辺美化活動：祓川周辺の環境美化に取り組んでいます。
- いきいきサロンの開催：参加者が気軽に交流できる場を作っています。
- 見守り隊活動：児童・生徒の登下校時に街頭での立哨活動を行っています。
- 自主防災組織活動：町会を中心に自主防災組織を作り、災害時の備えを充実させています。
- 稲荷神社例大祭：毎年10月に行われる例大祭への参加と運営の協力を行っています。
- わらじまつり、七夕祭りへの協力：事業へ賛同する各町会、企業、各種団体による協力を行っています。
- 町内一斉清掃や信夫山クリーンアップ作戦：春と秋に行う全市一斉清掃や信夫山クリーンアップ作戦に協力しています。
- 光のしづくイルミネーションへの参加：冬の風物詩となっている「光のしづくイルミネーション」に参加し、パセオ通りを中心に幻想的な光で街を華やかに彩っています。
- 花によるおもてなし事業：大学生や子どもたちと地域住民が協力して、花を植栽したプランターをレンガ通りに設置しています。



【花によるおもてなし事業】

地域の強みとなる資源

- 福島駅東口駅前の再開発
JR福島駅周辺の再活性化を目的に、関係機関とともに再開発を実施する予定です。
- 県立医科大学の保健科学部の設置
栄町地内に新たな学部が設置され、学生の交流や賑わいの創出が期待できます。
- 古関裕而とゆかりの地
全国的に注目を集める古関裕而のゆかりの地や関係する施設が存在します。
- 信夫山
信夫山を中心としたエリアには豊かな自然だけでなく、歴史・文化的価値のある多くの施設が存在します。

地域課題

- 県都福島市の顔としての都市機能と地域の強みを活かした地域活性化
- 高齢者をはじめ地域住民が快適で、安全に安心して健康に住める地域づくり
- 子どもが心豊かに成長するための環境づくり
- 地域の事業所、団体等と連携した交通安全と防犯対策の推進
- JR福島駅から古関裕而ゆかりの地・信夫山を結ぶルートに存在する地域資源の保存・伝承と利活用
- 世代間交流活動を通じた生きがいづくりと若者の定着

重点的な取り組み

I 中心市街地の活性化

- 【方針1】市民や観光客を呼び込み、中心市街地の活性化を推進します。
 - (拡充) 商店街や各種団体と連携し、年間を通して集客効果の高いイベントを開催します。また、イベント開催にあたっては、広報に力を入れ若年層の参加を促します。
 - (新規) 新型コロナウイルス対策として、「新しい生活様式」を踏まえた各種イベント開催へ協力し、経済の好循環を促します。
 - (新規) 関係団体との連携を図りながら福島駅東口駅前再開発事業へ協力し、早期の事業完了を応援します。
 - (拡充) JR福島駅東口から古関裕而ゆかりの地・信夫山までを繋ぐルートに存在する資源を活かし、回遊ルートづくりを検討し、併せて情報発信を行います。
 - (継続) 花いっぱい運動の実施や施設の清掃活動を行い、おもてなしの心でまちなかの魅力を伝えます。
 - (継続) こむこむ館、御倉邸、中央学習センター、アオウゼなどの教育文化施設を積極的に活用します。

II 相互共助のネットワーク

- 【方針1】高齢者や障がい者などの要援護者を支える地域ネットワークをつくり、困ったときにもお互いが声をかけあい手を差し出しあえる地域を目指します。
 - (継続) 向こう三軒両隣の声かけや回覧版の手渡し運動に取り組みます。
 - (継続) 地域のイベントへ、だれもが進んで参加しやすくなる取り組みを進めるとともに、いつでも集えるふれあいサロンの拡充に努めます。
 - (継続) 町内会や地域活動団体などが連携し、高齢者が相互にふれあえる機会をつくり、気軽に相談できる環境づくりを行います。

III 子どもの健全育成

- 【方針1】家庭・学校・地域が連携して、子どもたちを大事に育てる活動を推進します。
 - (継続) 家庭をあいさつの発信地として、地域にあいさつ運動を広めていきます。
 - (継続) 地区文化祭や地域の伝統行事を行う際には、各学校と連絡調整を図りながら子どもの参加を促します。
 - (継続) 季節の行事や伝統文化伝承をきっかけに子どもや若者が地域で活躍しやすい環境づくりを進めます。

IV 安全・安心なまちづくり

- 【方針1】地域の事業所・団体等と連携した交通安全と防犯対策を推進します。
 - (継続) 見守り隊や自主防災組織の強化など福祉、防犯、防災面での共助体制を充実させます。
 - (継続) 警察署や地域の事業所並びに関係団体と協力しながら、交通ルールやマナーの啓発及び街頭活動などを行い、交通事故の減少を目指します。
- 【方針2】防災に対する地域住民の意識を高め災害に強いまちづくりを目指します。
 - (新規) 各町会において災害発生時の緊急連絡体制を整備し避難情報などを適切に伝達します。
 - (新規) 防災訓練に若年層の参加を促すなど、幅広い世代の住民の防災意識を高めます。

V 地域資源の利活用

- 【方針1】地域資源を活用し、魅力あるまちづくりを推進します。
 - (継続) 信夫山と関わりのある活動や伝統行事を展開し、市のシンボルである信夫山を四季を通じた名所にします。
 - (新規) 信夫山の歴史を学び、魅力を再認識し、地域内外に情報発信をすることで、信夫山への集客につなげます。
 - (継続) 歴史的にも重要な多くの寺社仏閣をはじめ、御倉邸、岩谷観音、旧碓川橋などを活用し交流につなげます。
 - (新規) 御倉邸が持つ歴史的価値や魅力をさらに高めるため、継続して国の登録有形文化財の申請を行います。また、御倉邸を活用したイベント等を開催し、集客につなげます。
 - (新規) 全国的に注目を集めている古関裕而とそのゆかりの地などの情報を発信し、地域に住む子どもたちへの理解を深めるとともに、地域外からの集客につなげます。
 - (新規) 古関裕而をはじめとした歴史的著名人や地域内の文化財などを洗い出し、地域の魅力づくりにつなげます。



【福島駅東口広場の古関裕而像】

VI 世代間交流

- 【方針1】世代間交流を通じた生きがいづくりと地域内への若者の定着を促進します。
 - (拡充) 県立医科大学保健科学部など地域内の大学、高校と連携し、学生と地域住民との交流を積極的に行います。
 - (新規) 様々な世代、様々な立場の人との意見交換の場を設け、若者がまちづくりに関わる機会を作り、次世代を担う人材の育成を行います。
 - (新規) 若年層が主体的にイベントや事業の企画に携わるなど、若者が活躍する場の創出を図り、若者目線のまちづくりを実践します。

VII 環境と衛生

- 【方針1】住みよい環境づくりの理解を深め、快適な生活環境の保全を推進します。
 - (新規) 地域住民にごみ出しのルールの周知を図り、ごみの飛散防止策や鳥獣による被害防止策に取り組みます。
 - (新規) 市が行う出前講座などを活用し、各家庭におけるごみ減量や分別の重要性と方法を正しく理解します。

VIII 健康づくり

- 【方針1】地域や個人の特性に合わせた健康づくりを推進し、健康寿命の延伸を図ります。
 - (新規) 健康に関する客観的なデータを活用した学習会を開催し、地域内での健康づくり意識の高揚を図ります。
 - (新規) 各種サークルや団体と連携し、いきいきももりん体操など年齢や性別に応じた健康づくりの取り組みを普及させます。
 - (新規) 健康づくりの活動を通して相互に交流を深め、心の健康増進につなげます。